

公益社団法人

全国柔道整復学校協会

会報

令和4年

第61号

- ◆ 会長年頭挨拶
- ◆ 令和3年度専科教員認定講習会開催報告
- ◆ 第63回教員研修会開催報告
- ◆ 新会員校の紹介（専門学校沖縄統合医療学院）
- ◆ わが街の見どころ聞きどころ（福岡医療専門学校）

柔道整復学校養成施設倫理綱領

主 旨

公益社団法人全国柔道整復学校協会は、質の高い柔道整復師育成を以って国民の保健衛生の向上に寄与するため、柔道整復師養成施設（以下「学校」という）の倫理綱領を定める。

1. 学校の使命

学校は、国民の保健衛生の向上に寄与する柔道整復師を養成することを使命とし、建学の精神と理念を実践し、教育水準の維持及び質の向上に努める義務と社会的責務を全うするものとする。

2. 教育水準の維持及び質の向上

学校は、常に教員の資質の向上と教育内容の充実を図るとともに、多種多様な分野に対応し得る質の高い専門的教育を推進し、社会に求められる柔道整復師の育成に努める。

3. 自主性と他校連携

学校は、建学の精神と理念に基づき自主性をもった学校運営を行う中で、教育水準の維持及び質の向上を念頭に、他校とも連携し、社会に貢献できる柔道整復師を育成することに努める。

4. 法令等の遵守

学校は、養成施設指定規則及び指導ガイドライン並びにその他の法令を遵守すると同時に、公序良俗に違反する行為を排し、柔道整復師養成施設としての社会的責務を果たす中で、国民からの信頼と期待を得ることに努める。

5. 学校評価の推進

学校は、質の高い教育とよりよい教育環境の整備と充実を図るため、自己点検・自己評価の実施はもとより、第三者評価にも積極的に取り組み、同時にこれに基づいた情報公開を行うことで、透明性の高い学校運営に努める。

平成 29 年 12 月

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

会報



令和4年 ● 第61号

目次

頁

巻頭随想「昨今の柔道整復師養成について」	2
会長年頭挨拶	4
新会員校の紹介（専門学校沖縄統合医療学院）	5
令和3年度柔道整復師専科教員認定講習会東京会場開催報告	8
令和3年度柔道整復師専科教員認定講習会大阪会場開催報告	9
第63回教員研修会開催報告	11
社団設立30周年記念事業について（お知らせ）	18
臨時総会（9/17）議事録	19

理事会議事録

・令和3年度第5回、第5-2回、第6回、緊急（10/19～10/21）、第7回	22
---	----

【委員会の状況】

・教育支援委員会教育開発部会	
令和3年度第2回部会議事録	39
・教育支援委員会専科教員認定講習部会	
令和3年度第6回部会、第7回部会議事録	42
・広報・調査委員会	
令和3年度第3回委員会議事録	47
・「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会	
令和3年度第2回委員会議事録	50

【わが街の見どころ聞きどころ】

・「福岡の文教地区、西新」（福岡医療専門学校）	52
-------------------------	----

【各名簿】

・正会員一覧、学校理事長・校長・正会員名簿、賛助会員名簿、委員（部）会員名簿	54
・編集後記	63
・学校協会案内図	



昨今の柔道整復師養成 について

学校法人呉竹学園

理事長 坂 本 歩

ご高承のとおり、柔道整復師の資格は、平成の時代に入って間もなく、いわゆる都道府県知事免許から厚生労働大臣免許に移行しました。この時、柔道整復師の資質向上が大きな目標に掲げられ、カリキュラムも大幅に変更されました。国家試験科目もこの際に定められました。この改正では、医療を担う人材として相応しい知識を有することに力点が置かれた一方、知識偏重の教育にシフトした感がありました。この頃の学生は、その多くが、柔道整復施術所に勤務しながら学校に通うスタイルでありましたし、卒業後も一定期間いけば修行を続けることが一般的であったため、学校教育自体は完結型ではなく、特に臨床能力に関することは、市中の柔道整復師の先生方に依存している状態でありました。しかしながら、この養成方法は、豊富な知識と高いスキルを得る上で、一つの形となっていたかもしれません。

ところが、平成11年以降、学校養成施設が急増するとこの古き良き手法は、脆くも崩れてきました。今まで後進の指導をしていただいていた先生方だけでは面倒見切れない数の卒業生が輩出され、臨床能力の醸成が困難となったわけです。この時点から現行のカリキュラム改正まで実に20年以上の月日が流れ、この間、医療や福祉の現場も大きく様変わりしているのにもかかわらず、学校養成施設は、ただ国家試験受験のための教育に終始してきたのではないかと自戒する次第であります。

現行のカリキュラムは、卒業時に具有すべき臨床能力とは何か、そしてそのための教育とは何かという視点で検討されました。その結果が臨床実習の増加や医療福祉などの現場に即した教育内容の充実という部分に反映されたのだと思料します。未だ国家試験科目は平成当初に定められたままですが、財団法人柔道整復研修試験財団のご努力もあり、国家試験は少しずつ知識偏重から脱却しつつあります。

次代の柔整教育は、どのようなのでしょうか。資格を取るためには国家試験に合格する必要がありますが、当然、教育が国家試験に引っ張られることは、仕方がない部分があります。しかし、職業教育という観点においては、少なくとも卒業時に何を知っていて何がで

きるのか、この最もシンプルかつ難しい命題を、私共は常に考えていかなければならないと思います。そのためには、柔道整復の業は、どうなっていくべきかを業界団体とともに議論すべきでありますし、その上で、近い将来始まるカリキュラム改正を、どのような方向性にすべきか考えていかなければなりません。また、教育内容もさることながら実際に教育に携わる教員は、どのような人材であるべきかを考えるのも今ではないでしょうか。会員校の皆様におかれては、学校法人のガバナンス改革をはじめ、第3者評価の実施準備など時代の要請に応えるべく課題が山積している中ではありますが、柔整教育の未来を見据えた議論にご参加いただきたいと存じます。また、学校協会においては、谷口会長を先頭に、業界団体、関連学術団体など大いに連携を図りながら、強いリーダーシップを発揮され、柔整教育をより良い方向に導いていただくことを切に願うところであります。



会長年頭挨拶

公益社団法人全国柔道整復学校協会
会長 谷口和彦

新年おめでとうございます。会員校の皆様には旧年中、当会事業に多大なるご協力いただきましたことを、心よりお礼申し上げます。未だコロナ禍にあるものの殆どの事業の中止を余儀なくされた一昨年と比べ、昨年は柔道大会こそ見送りましたが「専科教員認定講習会」「教員研修会」の実施、当会監修教科書『柔整理論』の改訂、既存電子教科書の更なる機能改修についての検討など概ね計画通り進めることができました。電子教科書の利点として動画視聴は動作・技術を学ぶに非常に有効であることから、今年は次のステップとして『柔道』の教科書を、公益社団法人日本柔道整復師会ならびに公益財団法人講道館の協力を得て作成する予定です。その他、当会各種事業の継続と来る柔道整復分野の第三者評価に向け、一般社団法人柔道整復評価機構と連携しながら生徒の学修環境ならびに教育の質と保証の向上を支援してまいります。

さて、1992年7月に社団法人として設立した当会は2012年の公益社団法人認可を経て今年、創立30周年を迎えます。7月28日には式典の開催を予定しておりますので、皆様と共に祝うことができますれば幸いです。併せて次の10年へ向け、役員・職員一同、気持ちも新たに業務に励む所存です。

最後になりましたが、社会に貢献できる柔道整復師の活躍と、皆様の健康と益々のご発展を祈念し年頭の挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

新会員校の紹介

専門学校沖縄統合医療学院



I 号館



学生寮



II 号館



学校長 鈴木信司

- 名 称 学校法人松正学園 専門学校沖縄統合医療学院
- 所 在 地 〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4-1-19
TEL 098-875-8377 FAX 098-875-8366
URL <https://ocim.jp>
- 交通機関 沖縄県路線バス「浅野浦バス停」より徒歩3分
- 設置学科 第1 柔道整復学科（昼間部）- 3年制 定員30名
第2 柔道整復学科（夜間部）- 3年制 定員30名
第1 鍼灸学科（昼間部）- 3年制 定員30名
第2 鍼灸学科（夜間部）- 3年制 定員30名
理学療法学科（全日制）- 3年制 定員40名
社会福祉学科（夜間部）- 1年制 定員40名

●沿 革

- 2007年03月 - 第1及び第2柔道整復学科、厚生労働大臣より柔道整復師養成施設としての指定を受ける。
- 2007年04月 - セルテック柔道整復師養成学院開校 第1及び第2柔道整復学科 1期生入学式 举行
- 2010年04月 - 第1及び第2鍼灸学科設置に伴い、施設名を「沖縄統合医療学院」に変更
- 2011年02月 - 校舎（Ⅱ号館）竣工
- 2011年03月 - 第1及び第2鍼灸学科、九州厚生局よりはり師きゅう師養成施設として認定を受ける。
- 2011年04月 - 第1及び第2鍼灸学科開設 1期生入学式 举行
- 2011年07月 - 沖縄県浦添市伊祖5-4に学生寮「Peer Hills（ピアヒルズ）」竣工
- 2017年03月 - 学校法人、専修学校の沖縄県知事認可
- 2017年04月 - 一般社団法人柔道整復師振興育成会から学校法人松正学園へと組織変更
- 2017年04月 - 沖縄県知事認可に伴い、施設名を「専門学校沖縄統合医療学院」に変更
- 2019年04月 - 理学療法学科、社会福祉学科を開設 1期生入学式を举行
- 2021年10月 - 沖縄チャレンジセンター（Ⅲ号館）竣工

●教育理念

本校は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、学術を中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用能力の発展により人間形成につとめ、社会に貢献し得る有能な医療・福祉従事者を育成するとともに人類文化の発展に寄与することを目的とする。

●教育方針

- ①本校の教員は、学生の視点に立ち、学則に基づき柔道整復師及びはり師、きゅう師、理学療法士、社会福祉士の国家試験に合格できるレベルの知識と技術を教授できるよう、常に教育内容や教授法の工夫と改善に最大限の努力を行う。
- ②本校の教員は、所定期間内に知識・技術を修得しがたいと思慮される学生を常に把握し、当該学生が初期の目標を達成できるように最大限の援助・指導を行う。
また、国家試験不合格者に対してもできる限りの再学習条件を提示し、その者の学習環境を整え、初期の目標を達成できるように最大限の援助・指導を行う。

③地域において存在価値のある柔道整復師及びはり師、きゅう師、理学療法士、社会福祉士を養成するため、現代医学の知識・技術に加え、全人的観点に立った統合医療の新たな知識・技術を身につけるべく、我が国をはじめとする諸外国の伝統医療を取り入れ、それを教授する。また、今後、医療体制が統合医療へと変化するのに対応できるよう、保健・予防医療を含めた最新の情報を教授する。

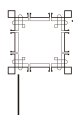
●施設

I 号館：沖縄県浦添市伊祖 4-1-19（柔道整復学科、鍼灸学科、法人本部）

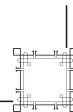
II 号館：沖縄県浦添市伊祖 4-9-8（理学療法学科、社会福祉学科）

III 号館：沖縄県浦添市伊祖 4-4-8（沖縄チャレンジセンター）

学生寮：沖縄県浦添市伊祖 5-4-17



令和3年度 柔道整復師専科教員認定講習会 東京会場 開催報告



主管校：学校法人呉竹学園 東京医療専門学校

早 川 幸 秀

令和3年度における柔道整復師専科教員認定講習会東京会場は26名での開催となりました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止となりましたが今年度は、東京医療専門学校が主管校となり、協力校として新宿医療専門学校ならびに東京柔道整復専門学校の御協力を得て無事に開催することができました。新型コロナウイルスが終息していない状況での開催だったため、受講生は不安を抱えながらの講習会であったと思います。

6月5日から対面形式の講義でスタートしましたが、7月12日から東京都に緊急事態宣言が再発令されたため、講義をオンライン形式と対面形式のハイブリッドで実施することになりました。講義を引き受けて頂いた先生方には急な変更にも関わらず対応していただき大変感謝しております。

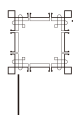
今年度からカリキュラムの改訂がおこなわれ『臨床実習者制度の理解』、『医用画像の理解』、『超音波実習』などの講義が追加され、受講生にとっては幅広く学ぶことができたと思います。また教育実習ではコロナ過での実施でしたので養成施設によって、オンライン授業やオンデマンド授業など通常の授業形態で行えない養成施設もあり講義計画書の作成に受講生の皆様は苦勞されたかと思います。

9月19日に専科教員認定講習会修了試験が行われ見事、受講生全員が合格しました。平日は仕事、休日は講習会と過密なスケジュールの中、体力的な負担は多大であったと思いますが、受講生全員が合格することができたのも限られた時間の中で地道に勉強をした結果だと思います。

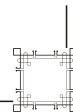
10月17日には閉講式が行われ谷口会長、関口副会長、高山副会長、協力校である新宿医療専門学校校長の永野先生、本校の校長である齊藤先生より講習会修了者への今後の活躍を期待する旨のお言葉を頂きました。

修了証書授与は代表者1名による授与になりましたが26名の修了者、そのうち11名が皆勤賞を受賞しました。

コロナ過での柔道整復師専科教員講習会でしたが、学校協会の皆様、協力校の先生方、講義を担当していただいた先生方の多大な御協力のおかげで無事に講習会を終えることができました。心より感謝を申し上げ、ご報告とさせていただきます。



令和3年度 柔道整復師専科教員認定講習会 大阪会場 開催報告



主管校：明治東洋医学院専門学校

令和3年度の柔道整復師専科教員認定講習会大阪会場は、明治東洋医学院専門学校が主管校となり、関西医療学園専門学校並びに森ノ宮医療学園専門学校のご協力を得て、6月12日（土）から10月16日（土）までの約5か月間にわたり、認定講習会を実施いたしました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と受講生の安全確保の観点から実施されず、2年ぶりの開催となりました。

当初予定していた受講試験が、緊急事態宣言発令中であったことから、5月9日（日）の予定が16日に延期されましたが、更に緊急事態宣言発令期間も延長となってしまいました。受講希望者が少なかったこともあり、特別措置として、選抜試験ではなく適性試験との趣旨で、小論文、出願理由書の提出及びリモートによる面接試験の実施となりました。結果、23名の受講生で計画どおり6月12日に開講式、講義がスタートしました。

講習会は、対面授業の実施を原則としており、受講生全員が最後まで対面での受講ができるよう願っておりましたが、期間中に急激なコロナ新規感染者の増加により、来阪することで業務に差し支えが生ずる理由があるという受講生を対象とし、希望者には、8月14日から9月5日までの期間において、リモート授業を導入することとなりました。協力校及び受講生には、急遽のことで、何かと配慮が欠けていた点多々あったことと思いますが、ご容赦の程、お願い致します。このような状況の中、体調管理に毎日気をつかい、最後まで誰も感染することなく終了しましたことに感謝申し上げます。

従来のお店の認定講習会は、授業終了後に毎回のよう懇親を深め、日に日に連帯感が増していきましたが、今年度の受講期間は、お店は時短営業となっていましたので、講義が終わった頃にはお店が閉まり懇親を深める機会がなかったことが、非常に残念に思います。遠方から宿泊を伴い受講された方にとりましては、移動のための時間的負担はもちろん交通費や宿泊費等あらゆる面において大変なご苦労だったと思いますが、大阪会場の特徴は、何よりも3校の強い協力体制による実施のため、様々な分野でご活躍をされておられます専門的な先生方に教鞭をとっていただき、受講生にとって得るものも多く、大変有意義な講義であったことと確信しております。

また、コロナ禍の中、皆勤賞の受賞者が11名という結果も、職場やご家族の理解を得ることにさまざまなご苦労があった中、受賞されましたことに敬意を表します。

受講生の皆様には、運営の不手際で何かとご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、受講生の皆様、協力校の運営委員の先生方のご協力のお蔭をもちまして、無事に令

和3年度の講習会を終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。

最後となりましたが、受講生の皆様におかれましては、学校を取り巻く環境は、大変厳しい将来が予想されますが、この講習会で得た知識、知り合った仲間をいつまでも大切にされ、それぞれの現場で日々研鑽に励まれるとともに将来を担う柔道整復師の育成にご活躍されますことを祈念しております。

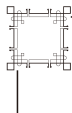


閉講式終了後 集合写真

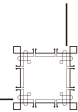


閉講式（於 講堂）

閉講式は、来賓の先生方にはやむを得なく出席をお願いせず、主管校及び運営委員のみで時間を短縮して実施いたしましたが、閉講式につきましては、協力校の校長先生にご出席、ご挨拶をいただき無事開催することができました。



令和3年度 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 第63回 教員研修会開催報告



教育支援委員会教員研修部会

部会長 本 澤 光 則

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 第63回教員研修会が、令和3年11月27日（土）、28（日）の両日、大阪府泉佐野市にあるスターゲイトホテル関西エアポートで開催されました。

昨年は新型コロナの感染拡大により第62回大会が準備や手配の途中で中止となりましたが、今大会も引き続き、主管を学校法人履正社 履正社医療スポーツ専門学校に担当していただきました。

世界中で感染が拡大し、日本においても各地で猛威を奮い、多大な社会経済活動に影響もあった中で、2年越しに開催できたことは教育養成に携わっておられる先生方の熱い想いにより、「柔道整復が社会に果たす役割」のメインテーマのもと、全国より約250名の先生方にご参集いただき、両日成功裏に終了しました。

開会の式典では、来賓として、公益財団法人柔道整復研修試験財団 福島統 代表理事、公益社団法人日本柔道整復師会 工藤鉄男 会長、一般社団法人日本柔道整復接骨医学会 坂本歩 副会長、一般社団法人柔道整復教育評価機構 関口正雄 理事長、ならびに公益社団法人大阪府柔道整復師会 徳山健司 会長にご臨席を賜りました。

学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 齊藤秀樹 担当理事が開会の辞を述べられ、引き続き学校協会 谷口和彦 会長、主管校 学校法人履正社 釜谷等 理事長よりご挨拶があり、ご来賓の福島統様、工藤鉄男様、坂本歩様、関口正雄様よりご祝辞を賜りました。

14時00分より、講演1「遊びと研究 -後悔しない人生バランス-」のテーマで、大阪大学大学院医学系研究科病理学教室 仲野徹 教授にご講演いただきました。座長は 釜谷理事長にご担当いただきました。

仲野先生が、ノーベル医学生理学賞受賞者の本庶佑先生をはじめとする師事された先生方との出会い、そして研究内容をご紹介頂き、なかでも先生の研究テーマでもある、「エピジェネティクス」についてお話しいただきました。

「エピジェネティクス」とは、DNA塩基配列によらない遺伝子発現を制御、伝達するシステム及びその学術分野のことで、バーカー仮説や、エピジェネティックランドスケープなど例を示しながらわかりやすく説明頂きました。このエピジェネティクスの例を通し、さらに人はその後の環境でいくらでも変わることができ、その環境は、自分自身のちょっとした行動の変化で、変えることができることもお示しいただきました。

講演の最後には、自分で決められることは自分の時間の使い方だけで、やらない後悔よりも、やって後悔。変われると思わないと変われないし、変われると思うと変わることができる。そして、看護師が語った、死の直前に誰もが口にする「後悔のことは」を紹介されました。

15時45分より、分科会が開催され、今回は2つのテーマで行われました。

○分科会：第1テーマ 「学生の臨床実習 ～重要性と課題～ 医学教育を例に」

一般社団法人科学・政策と社会研究室 榎木英介 代表理事 にご講演いただき、座長は履正社医療スポーツ専門学校 池尾忠思 校長にご担当いただきました。

2018年4月より柔道整復師の養成課程において臨床実習が4単位180時間以上となり、臨床実習の目的や内容などがさらに重要となりましたが、今回は医学部医学科での臨床実習の現状と課題についてのご講演でした。医学部医学科でも改革が進んでおり、見学型主体の臨床実習からスチューデントドクターとして診療に加わるなど、より臨床の現場に入り込む参加型にシフトしている。それに伴い医学部卒業時には、ある程度の臨床を経験した状態で医師としてスタートができます。

しかし、参加型とはいえ複数の科を数日から数週間で移動しながら実習を行うため、どの程度参加させるかに限界があり、また2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響により対面での実習が行えていないなどの課題があるという内容でした。

○分科会：第2テーマ 「サードオピニオンや精査を必要とした症例の報告

～X線で判定困難であった骨折の工夫や他の疾患などに対する対診の努力義務～」

河井整骨院 河井好照 院長にご講演いただき、座長は森ノ宮医療大学 伊黒浩二 先生にご担当いただきました。

整骨院を開業され36年の日常診療の経験から、骨折を疑い処置を施し医療機関に紹介するも、X線などの検査にて異常がないと診断されたが、骨折を疑い固定を継続した結果、再度X線検査で仮骨形成が確認された鎖骨骨折・上腕骨外顆裂離骨折の症例などを発表していただいた。

さらに、来院された患者さんが他の疾患であることを疑い、医療機関に転医してもらうも、患者さん自身が納得できるような回答が得られず、再度来院された場合の対処した経験談を小脳出血・顕微鏡的多発血管炎・リウマチ性多発筋痛症などを例とし、紹介されました。

17時00分より、ポスターセッションが開催され、全11題（研修助成発表8題、一般公募発表3題）の発表が行われました。

ホテル4階会場前の通路を利用した特設会場にポスターを掲示し、発表形式ではなく、

時間内を自由に質疑応答できるように配慮していただきました。その結果、終了時刻までそれぞれのポスターにおいて先生方の質疑応答が活発に行われていました。

今回の研究発表内容は下記の通りになります。

1. 手根骨の動きを利用した手根管症候群の症状改善方法 【研究助成発表】明治東洋医学
院専門学校 宗友宏行・石原梨帆
2. 身体活動量と精神的健康度の因果関係の推定 【研究助成発表】四国医療専門学校 四
宮英雄
3. FileMnker サーバーを用いた柔道整復教育システムの開発 【研究助成発表】明治東洋
医学院専門学校 岡本芳幸・三澤圭吾
4. 睡眠の質が教職員・学生の身体的・精神的健康に与える影響について 【研究助成発
表】四国医療専門学校 鹿庭祥平
5. 階段動作における中足趾関節の機能について 【研究助成発表】明治国際医療大学 松
本和久
6. 柔道競技における外傷の実態 【研究助成発表】明治国際医療大学 沖和久
7. 足関節テーピングが歩行時重心動揺に及ぼす影響 【研究助成発表】常葉大学 眞鍋和
親・上村英記
8. 柔道におけるすり足歩行の転倒防止効果 - 重心動揺に着目して - 【研究助成発表】
常葉大学眞鍋和親・中井真悟・森山伸一・上村英記
9. 超音波画像観察装置を使った野球肘と股関節の柔軟性の検証 【一般発表】平成医療学
園専門学校 竹本晋史・北野吉廣
10. 左第5中足骨基部裂離骨折における超音波画像の有用性と保存療法 ～早期社会復帰を
目指して～ 【一般発表】平成医療学園専門学校 樋口朋基・石井裕己・土岐明寛
11. 柔道授業が精神に及ぼす影響 - 養成学校生に対する認識調査を基にして - 【一般発
表】東亜大学 福井悠紀子、平成医療学園専門学校 北野吉廣・丹治良輔・益賢明、宝
塚医療大学 澤田規、名古屋平成看護医療専門学校 宮城研介、日本体育大学 久保山
和彦

18時15分より懇親会が開催され、主管校の履正社医療スポーツ専門学校 池尾忠思 校長よりご挨拶があり、続いて公益社団法人 大阪府柔道整復師会 会長 徳山健司 先生よりご祝辞を賜り、学校協会 清水尚道 顧問の乾杯のご発声のもと、懇親会が始まりました。

今年は感染症対策として、全員着席正餐式での宴席となり、グラスを酌み交わすことも控えめに、例年とは異なった懇親会でしたが、ジャズバンドの演奏による優雅な時間を贅沢に過ごすことができました。中締めは学校協会 組織運営委員会 田中雅博 担当理事の挨拶により懇親会を終了しました。

研修会2日目は、9時00分より講演2「PD-1の基礎研究、新しいがん免疫療法の開発、そして2018年のノーベル生理学医学賞」を、奈良先端科学技術大学院大学 石田靖雅 独立准教授にご講演をいただき、座長を近畿大学医学部病理学講座 伊藤彰彦 教授に担当いただきました。

抄録を記載させていただき、以下に概要を記載しておきます。

『今から30年前、私は「自分に反応して攻撃を開始する（可能性がある）危険なTリンパ球（T細胞）が自殺する際に働く遺伝子」を同定すれば、免疫学における自己（自分）－非自己（他人・異物）識別の謎に迫ることができるに違いないと考え、厳密なスクリーニング実験を行った。そして、新たに発見された（たったひとつの）遺伝子がそのようなものであって欲しいという願いをこめて、programmed death-1（PD-1）と命名した。その後の研究により、PD-1は抗原によるT細胞の活性化を抑制する分子であることが明らかになった。さらに、人工的に作製した抗体によってPD-1の働きを阻害し、T細胞を抑制状態から解放するだけで、がん細胞に対する免疫応答が著しく増強される（場合がある）ことが示され、2018年12月、京都大学の本庶佑教授にはノーベル生理学医学賞が授与された。今回のトークでは、ノーベル賞授賞式や晩餐会の様子も詳しく紹介しながら、30年間にわたるPD-1研究の歴史を振り返りたい』と、抄録には記載されており、特にPD-1の命名のエピソードや、当時、本庶先生から指導を受けた事、本庶先生のお人柄までコミカルに表現していただき、大変聴講しやすい内容でした。

10時35分より、講演3『死因究明は私たちの未来を創る』を、大阪大学大学院 医学系研究科 法医学教室 松本博志 教授にご講演をいただき、座長を医療法人山紀会 山本第一病院 高折洋 病院長に担当いただきました。

抄録を記載させていただき、以下に概要を記載しておきます。

『皆さん、ご家族がお亡くなりになられた際、どのようなことを思いますか？また、その死亡を自身の生活にどのように活かそうと考えますか？ご家族の死亡は極めて大きいものです。その死を受け止めることはなかなか重いものです。その中で、それぞれの死においては必ず医師が死亡の確認と死因を診断して書類を発行します。その死因は極めて重要でその後の取り扱いの判断に使われると同時に保険等の支払いに使用されます。私たちの死因はどうなっているのでしょうか。新型コロナウイルス感染での死亡や自殺の増加を耳にするかと思います。実際には、多い方から大きく捉えた形で、悪性新生物、心疾患、老衰という3大死因がつづき、新型コロナウイルス感染での死亡や自殺は10位外です。現在は、世界の国が世界の先頭を走るとは極めて少なく、海外にモデルはありません。患者さんの年齢層もかなり高く、そして多死社会を迎えます。社会保障政策は大きな転換期を迎えているのかも知れません。この講演では、死因とは何なのか、死因診断はどうしているのか、死因不明社会と言われているのはなぜか、そして正確な死因が社会をどのように良くするのか、お話をさせていただければ幸いです』

医学の領域でも、法医学についてはあまり接する事がなく我々にとっては、未知の部分が多いことは事実です。その内容を死因究明の意義と、究明が我々のこれからの未来や生活にどのように影響し、死者を減らすことができるのか、大変分かりやすくご講演をいただきました。病気、事故、自殺など人間の死について現在の統計的数値や分類もご提示いただき、法医学という専門領域での学問的意義、幅広い教養と知識が身についた講演でした。

講演終了後、12:00より閉会式が行われ、次年度主管校の学校法人滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校 竹本雅信 常務理事よりご挨拶があり、続いて学校協会 高山雅行 副会長の閉会の辞をもって、終了しました。

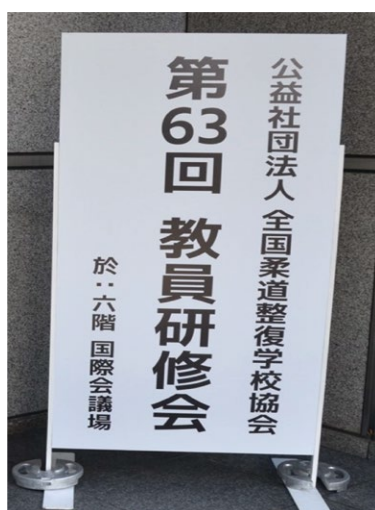
第63回教員研修会の開催にあたり、学校協会 谷口和彦 会長、齊藤秀樹 担当理事をはじめ、教育支援委員会教員研修等部会の先生方、役員の先生方、ご来賓の皆様方、そして全国の柔道整復師養成施設の教職員の先生方には、多大なるご協力とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、学校法人履正社 釜谷等 理事長、履正社医療スポーツ専門学校 池尾忠思 校長、並びに教職員の先生方におかれましては、前年度のコロナ禍での延期、本年度感染再拡大による日程変更と言う難局の中、主管校の労をとっていただき、はなはだ感謝の念に堪えません。

次年度第64回教員研修会は愛知県名古屋の地で、名古屋医健スポーツ専門学校が主管として開催されますので、万障お繰り合わせの上、心よりご参加をお待ちいたしております。

〔日程〕 令和4年9月18日（日）、19日（月祝）

〔会場〕 名古屋東急ホテル



立て看板



試験財団 福島代表理事



柔整師会 工藤会長



接骨医学会 坂本副会長



評価機構 関口先生



学校協会 谷口会長



講演1 仲野先生



講演2 石田先生



講演3 松本先生



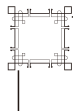
懇親会会場



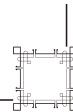
分科会1 榎木先生



分科会2 河井先生



全国柔道整復学校協会 社団設立30周年記念事業について



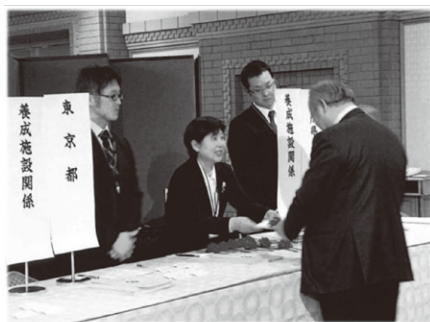
社団設立30周年記念事業準備委員会
広報・調査委員会

来る令和4年7月に、全国柔道整復学校協会は社団設立30周年を迎えます。社団設立からの30年を会員校の皆さまとともに振り返り、これからの未来に歩みを進めるべく、以下の概要にて社団設立30周年記念事業を計画しております。

全国柔道整復学校協会 社団設立30周年記念事業 概要

- 日時 令和4年7月28日（木） 午後3時開式予定
- 会場 パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）
- 内容 講演会、式典・祝賀会を予定

〔前回の様子（設立20周年）〕



詳細が決定され次第、会員校様にはご案内申し上げます。校務ご繁多のところ誠に恐縮に存じますが、ご予定いただければ幸甚に存じます。

なお、広報・調査委員会において式典当日に投影するスライドを作成しておりますが、画像が不足しております。お手元に学校協会、または斯界に係る貴重な画像を所有されていらっしゃる会員校様におかれましては、お手数をお掛けいたしますがぜひ学校協会事務局までEメール添付にてお寄せいただければと存じます。

〔画像等送付先〕 info@judo-seifuku.or.jp（全国柔道整復学校協会 事務局）

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和3年度 臨時総会議事録

1. 開催日 令和3年9月17日（金） 16:00～16:30

2. 会場 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階
電話 03-5405-1690（代表）

3. 出席者 総数24名（別紙 出・欠席名簿のとおり）
正会員出席者23名（内ZOOMによる出席者17名）
正会員欠席者23名（内委任状提出者19名）
事務局1名

4. 議事概要

(1) 臨時総会の開会宣言

司会者（事務局長）から、臨時総会の開会宣言の後、本総会の正会員出席者は23名、欠席者は23名、ただし欠席者19名から「委任状」が提出され、定款第17条に基づく総会開催の定足数正会員の2分の1（24名）以上であり、本総会は適法に成立していると報告。

(2) 会長開会挨拶

谷口会長の挨拶。

(3) 司会者から、東洋医療専門学校は新たに古谷圭司先生が正会員に就任されたと報告。

(4) 議長の選出

司会者が、定款第15条に基づく議長の選出について総会に諮ったところ、司会者一任とされたことから、司会者は呉竹鍼灸柔整専門学校の村上哲二正会員を指名、総会は異議なく賛成し、村上哲二正会員も議長就任を承諾。

(5) 議事録署名人の選任

村上議長は、議長就任挨拶のうえ、議事録署名人2名の選出について総会に諮った

ところ、議長一任とされたことから、日本柔道整復専門学校の下地秀和正会員と平成医療学園専門学校の北野吉廣正会員の両名を指名し、総会は2名の議事録署名人を承認し、両正会員も承諾。

(6) 議案の審議

1) 議案

村上議長は議案の審議に入る旨宣言し、議案「役員の選任について」谷口会長に説明を求めた。

谷口会長から、

- ・ 通常の任期満了に伴う改選の場合、総会に役員選考委員会を設け役員候補を選考し総会に諮る手法で役員を選任
- ・ しかしながら、今回は萩原正和理事の役員辞意表明に伴う後任役員の選任であり、新たに選任される新理事の役員在任期間は萩原正和理事の残任期間となる
- ・ 理事会の議論では、上記の事情及び当学校協会を巡る諸情勢を鑑み、新理事については、正会員からの選任だけではなく外部の学識経験者もその対象として幅広く検討する必要があるとの結論
- ・ よって今回の役員選任は、役員選考委員会の議を経ない手法を採用してはどうか、その是非について先ず審議願いたい

と説明。

村上議長は、質疑に入る旨を告げ、総会に質問並びに意見を求めた。しかしながら、意見等が無いことから谷口会長の提案について表決に移ることを宣言し、承認について賛否を諮ったところ、出席者全員異議無く、これを承認可決した。

次に谷口会長から、学識経験者として日本体育大学保健医療学部整復医療学科教授の伊藤 譲先生を新役員に推薦したいと提案。

村上議長は、質疑に入る旨を告げ、総会に質問並びに意見を求めたが意見等が無かったため、谷口会長の提案について表決に移ることとし、承認について賛否を諮ったところ、出席者全員異議無く、これを承認可決した。

これにより、村上議長は、議案「役員の選任について」は伊藤 譲先生が承認されたと宣言。

(7) 報告事項

村上議長は、引き続き報告事項に入る旨宣言し報告を求めた。

1) 委員会

ア. 教育支援委員会

齊藤理事から、教科書部会は「柔道整復学・理論編」の改訂作業進捗状況について、教員研修等部会は開催日を延期した今年度教員研修会の日程等について、専科教員認定講習部会は今年度の専科教員認定講習会の開催状況について報告。

イ. 「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会

齊藤理事から、今年度模擬試験実施に向けた作業進捗状況について報告。

2) 関係団体

関口副会長から、一般社団法人柔道整復教育評価機構について、学校協会会員校に対し入会申し込み及び年会費納入に対する謝辞及び第一次評価の実施概要について報告。

3) その他

谷口会長から、新型コロナウイルスワクチン接種推進奨励事業の概要について報告。

村上議長は、各報告事項について質問・意見を求めたが発言は無かったことから、本臨時総会の議事の全てが終了した旨及び円滑なる議事進行の協力に謝意を表し、閉会を宣言。

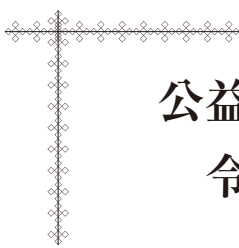
よって、本日の臨時総会の議事経過の概要を記載、その内容を明確にするため、議長及び議事録署名人2名が署名押印する。

令和3年9月17日

議長 村上 哲 二 印

議事録署名人 下 地 秀 和 印

議事録署名人 北 野 吉 廣 印



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和３年度 第５回理事会議事録

- １．開 催 日 令和３年９月１７日（金） １４：００～１６：００
- ２．会 場 全国柔道整復学校協会事務局
 東京都港区浜松町１－６－２丸神ビル１階
 電話 ０３－５４０５－１６９０（代表）
- ３．出 席 者 １０名（理事７名）、欠席者 １名
- ４．会長挨拶
 谷口会長が挨拶を行う。
- ５．議事録署名人の選任
 谷口会長が定款に基づき、出席した会長、副会長及び監事が議事録に署名することを述べ、理事会は了承。
- ６．議事経過
 - （１）議 案
 - ①令和３年度臨時総会の運営について
事務局長から、令和３年度臨時総会の運営及び進行について、次第等に基づき説明、理事会はこれを決定。
 - ②柔道整復教育評価機構自己点検シート（第一次評価）について
前回理事会から継続審議の「柔道整復教育評価機構自己点検シート」案に関し、改めてその内容について議論を行った結果、一部修正を加えたうえで成案とすることを理事会は決定。
 - ③新型コロナウイルスワクチン接種奨励事業について
前回理事会から継続審議の、当会会員校に対する新型コロナウイルスワクチン接種奨励事業の具体的内容について議論した結果、
 - ・柔道整復学科在籍生徒のワクチン接種率（２回目）が５０％以上であること

・上記ワクチン接種率を裏付ける把握方法及び検証資料を提出すること
を条件とし、会員校に対し1回に限り10万円を助成することと、当該事業対象期間
を令和3年4月1日から同年12月31日とすることを理事会は決定。

(2) 報告事項

①代表理事の職務執行報告と行事予定（9月、10月）

谷口会長、関口副会長及び高山副会長から、職務執行として9月及び10月の各委員会の活動状況・予定並びに諸行事の予定を報告し、理事会は了承。

②各委員会報告

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、「柔道整復学・理論編」の改訂作業の進捗状況について報告。

イ. 教育支援委員会教育開発部会

齊藤理事から、現行教科書電子版の利便性向上策を検討していることを報告。

ウ. 教育支援委員会教員研修等部会

齊藤理事から、今年度教員研修会の参加者見込み数のほか、来年度教員研修会開催に向け、主管校の名古屋医健スポーツ専門学校と9月14日（火）に打合せを行ったことを報告。

谷口会長は、会員校の持ち回りで開催する従来のやり方について、年々大きな主管校の負担を踏まえ、令和5年度教員研修会以降の在り方について早急な議論を要すると発言。

エ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

齊藤理事から、残る今年度の講習会日程のほか、皆勤賞を対面方式に加えオンライン出席者も対象とすることを報告。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、今年度の「入学者の構成に関するアンケート調査」集計結果のグラフ化について相談があり、従前と同様の表記とすることを理事会は確認。

続けて、「卒業生進路状況アンケート調査」の作業遅延を報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、報告事項は無いと報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、報告事項は無いと報告。

ク. 「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会

齊藤理事から、当会会員校及び非会員校の模擬試験参加希望状況について集計中であると報告。

ケ. 学校協会創立30周年記念事業準備委員会

田中理事から、報告事項は無いと報告。

③関連団体等に関する報告

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

事務局長から、同財団発出の「第30回柔道整復師国家試験の見込み受験者数調査」について報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

齊藤理事から、報告事項は無いと報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

谷口会長から、報告事項は無いと報告。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、当会会員校からの入会申込及び入会金納入状況について、また、大阪府の令和3年度私立専修学校専門課程質保証・向上補助金についてそれぞれ報告。

オ. 厚生労働省

事務局長から、9月14日付同省幹部の人事異動状況を報告。

カ. 文部科学省

事務局長から、9月21日付同省幹部の人事異動状況を報告

④その他

事務局長から、当会入会申請のあった専門学校沖縄統合医療学院に対し、事前審査結果及び指摘並びに報告を求める文書を発出したこと、また、特定資産運用に関する各証券会社の提案内容についてそれぞれ報告。

以上で、理事会は16時00分終了する。

令和3年9月17日

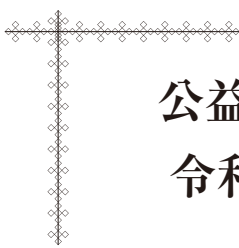
会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

副 会 長 高 山 雅 行 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和3年度 第5-2回理事会議事録

1. 開催日 令和3年9月17日（金） 16：30～16：45
2. 会場 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町1-6-2丸神ビル1階
電話 03-5405-1690（代表）
3. 出席者 10名（理事7名）、欠席者 1名
4. 会長挨拶
谷口会長が挨拶を行う。
5. 議事録署名人の選任
谷口会長が定款に基づき、出席した会長、副会長及び監事が議事録に署名することを述べ、理事会は了承。
6. 議事経過
 - (1) 議案
 - ①新役員の役割分担等について
先の臨時総会において新たに選任された伊藤理事には、教育支援委員会教員研修等部会と専科教員認定講習部会を担当して頂くとともに、齊藤理事においては、当面の間、伊藤理事をサポート頂きたいと提案、理事会はその旨決定。

以上で、理事会は16時45分終了する。

令和3年9月17日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

副 会 長 高 山 雅 行 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和3年度 第6回理事会議事録

1. 開催日 令和3年10月14日（木） 15：00～19：30

2. 会場 札幌東急REIホテル「プリエール」2F
札幌市中央区南4条西5-1
電話 011-531-0109

3. 出席者 10名（理事8名）、欠席者 1名

4. 会長挨拶

谷口会長が挨拶を行う。

5. 議事録署名人の選任

谷口会長が定款に基づき、出席した会長、副会長及び監事が議事録に署名することを述べ、理事会は了承。

伊藤新理事から理事会出席役員に対し就任の挨拶。

6. 議事経過

(1) 議案

- ①学校協会監修教科書の今後の在り方について
- ②教員研修会の今後の開催方針について
- ③専科教員認定講習会の今後の在り方について

谷口会長から、①②③の提案趣旨について今後の方針整理のために議論を深めるためであると説明。

理事会の議論では、①は、

- ・教科書分担執筆時の強力な監修体制の構築
- ・カリキュラム改変時にも即応可能な教科書の電子化
- ・厚生労働省に対する次期カリキュラム改訂に向けた働きかけの強化
- ・利用状況アンケート調査結果を踏まえた現行監修教科書ラインナップ見直しを要点として、今後整理していくことを確認。

まずは、教科書部会にて来年度使用する教科書の取捨選択から着手することとし

た。

次に、②は従来の開催方式（主管校一校担当）から、全国をブロックに分け持ち回りで開催するとともに、教員研修等部会との連携方式に見直すことを要点として、今後整理していくことを確認。

更に、③は既開催理事会において将来的に教員養成課程の制度創設を目指す合意を得ているため、制度の内容、創設時期、それに向けてのスケジュール等を要点として、今後整理していくことを確認。

④入会審査手続きの見直しについて

事務局長から、前回理事会で「柔道整復教育評価機構自己点検シート」（以下、「自己点検シート」という。）の内容決定を受け、今後は当会入会申込時提出書類（①入会申込書、設立趣意書、誓約書、②理事長、校長等履歴書、③教員名簿、④学則、カリキュラム、学校案内パンフレット）に、新たに「時間割、自己点検シート、学校概要、改善計画書」を加える修正内容を提案。

理事会で議論の結果、修正の適用を決定。事務局で規程改正作業を行うよう指示。

⑤その他

関口副会長から、

- ・厚生労働省事業の教育訓練給付制度「教育訓練支援給付金」が今年度末で打ち切りとなり、以降取扱いについては同省の審議会で議論が開始される
- ・東洋療法学校協会では「教育訓練支援給付金」制度延長を同省に要望予定と報告。当会も東洋療法学校協会と足並みを揃え、厚生労働省に対し制度延長を要望してはどうかと提案。

理事会で議論の結果、会長名の要望書を発出することを決定。

続いて、事務局長から特定資産の運用について各証券会社からの提案を検討した結果、共同発行市場公募地方債の11月債購入が適当と考えるが、同債券は人気が高く発売と同時に完売する可能性があるため、利回り率公表前となるが購入予約することを提案、理事会はこれを決定。

(2) 報告事項

①代表理事の職務執行報告と行事予定（10月、11月）

谷口会長、関口副会長及び高山副会長から、職務執行として10月及び11月の各委員会の活動状況・予定並びに諸行事の予定を報告し、理事会は了承。

②各委員会報告

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、9月9日（木）、10日（金）に部会を開催したと報告。

イ. 教育支援委員会教育開発部会

齊藤理事から、報告事項は無いと報告。

ウ. 教育支援委員会教員研修等部会

齊藤理事から、来年度教員研修会開催主管校予定の名古屋医健スポーツ専門学校と、教員研修等部会担当理事及び同部会幹部並びに名鉄観光サービス（株）の三者打ち合わせを、11月1日（月）に行う予定であることを報告。

エ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

齊藤理事から、修了試験合否判定を行う部会を、東京会場分は9月21日（火）、大阪会場分を同月27日（月）に開催し、東京会場26名と大阪会場23名全員の合格を確認したと報告。

オ. 広報・調査委員会

大塚理事から、会報第60号を今月発刊したこと及び「卒業生進路状況アンケート調査」の作業進捗について報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、報告事項は無いと報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、報告事項は無いと報告。

ク. 「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会

齊藤理事から、当会会員校32校及び非会員校18校から模擬試験参加希望があったと報告。

ケ. 学校協会創立30周年記念事業準備委員会

田中理事から、報告事項は無いと報告。

③関連団体等に関する報告

ア. (公財) 柔道整復研修試験財団

関口副会長から、今月7日(木)に常任理事会を開催したと報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、11月13日(土)14日(日)に帝京平成大学をリアル会場に、第30回日本柔道整復接骨医学会学術大会がハイブリッド(リアル・オンライン)開催されると報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

谷口会長から、報告事項は無いと報告。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

高山副会長から、前回理事会で指摘を受けた「自己点検シート」の「学校概要」及び「改善計画書」の様式及び記載例の修正内容を報告。

続けて関口副会長から、当該自己点検依頼文書(柔道整復教育評価機構理事長名)の文案を検討中であると報告。

オ. 厚生労働省

事務局長から、報告事項は無いと報告。

カ. 文部科学省

関口副会長から、学校法人ガバナンス改革会議の動向について報告。

④その他

事務局長から、現在入会審査中である専門学校沖縄統合医療学院に対し、指摘および報告を求めた以降のやり取りについて、また、「新型コロナワクチン接種奨励事業」交付要項案について、それぞれ報告。

谷口会長は理事会に対し、交付要項の早期発出に向け意見があれば近日中に提出するよう求めた。

続けて事務局長から、萩原前理事より本理事会に対し、北海道の柔道整復師に関する資料提供があったことを報告。

以上で、理事会は19時30分終了する。

令和3年10月14日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

副 会 長 高 山 雅 行 印

監 事 清 水 尚 道 印

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和3年度 緊急理事会（10/19～21）議事録

1. 開催日 令和3年10月19日（火） 15：10
～ 同年10月21日（木） 15：30

2. 提案・発信者 全国柔道整復学校協会 会長 谷口 和彦
(事務局長 永田 昭彦)

3. 回答者 9名（理事7名）

4. 決議事項

専門学校沖縄統合医療学園への現地訪問調査について

入会申込のあった専門学校沖縄統合医療学園の入会審査に関する事前審査委員会（以下、「同委員会」という。）委員長より、同校から追加提出された入会申込書類について審議を行った結果、次の段階（現地訪問）に進むべきとの報告及び提案があった。

本提案に関して定款第31条第2項に則り、本件の可否について理事全員の決議を求める。

5. 採決日時

採決は電子メールを原則として、配信時点より令和3年10月26日（火）発信までとした。

6. 審議の結果

当該提案について、理事全員から電子メールにより異議無く全会一致にて同意を得たうえ、監事2名からも当該提案と理事全員の可否を確認し、電子メールにより同意を得たので、定款第31条第2項に基づき、当該提案は可決の理事会決議があったものとみなす。

令和3年10月21日

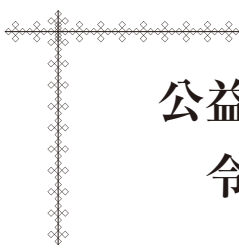
会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

副 会 長 高 山 雅 行 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



公益社団法人 全国柔道整復学校協会

令和３年度 第７回理事会議事録

１．開 催 日 令和３年11月19日（金） 14：00～16：00

２．会 場 全国柔道整復学校協会事務局
東京都港区浜松町１－６－２丸神ビル１階
電話 03－5405－1690（代表）

３．出 席 者 11名（理事８名）

４．会長挨拶
谷口会長が挨拶を行う。

５．議事録署名人の選任
谷口会長が定款に基づき、出席した会長、副会長及び監事が議事録に署名することを述べ、理事会は了承。
伊藤理事から理事就任の挨拶。

６．議事経過

（１）議 案

①正会員の入会審査について

高山副会長及び大麻理事から、専門学校沖縄統合医療学院の入会審査に関する同校訪問調査結果について懸念材料はあるものの、普通教室他校舎・設備に関する基準並びに教員等に関する措置も指定基準を満たしていることから、入会を認めた上で改善を促す方向でよろしいのではないかと考えたと報告。

理事会は、議論の結果、同校の入会を承認。

これを受け谷口会長は、12月１日付けで同校の入会を決定した。

②入会及び退会に関する規程改正について

事務局長から、前回の理事会で承認された入会審査手続きの見直しに伴い、「入会及び退会に関する規程」の改正内容等について、所要の箇所を修正すると共に、入会審査等に要する書類の様式について、「入会及び退会に関する規程」に定められた

様式については削除し、新たに提出を要する書類を定めることとした、と説明。

理事会は原案どおり承認すると共に、総会に諮ることを決定。

③令和2年度決算報告書の一部修正について

事務局長から、令和2年度決算報告書について、提出先である内閣府担当官より他会計振替額の誤謬を指摘する連絡があったこと、またこれに係り、当会会計事務を業務委託している堀井公認会計事務所より、原因分析と再発防止策について報告があったことを説明。

理事会は原案どおり承認すると共に、総会に諮ることを決定。

④その他

谷口会長から、「入会及び退会に関する規程改正について」「令和2年度決算報告書の一部修正について」を諮るため、12月15日（水）の第8回理事会終了後に臨時総会を開催したいと提案。理事会はこれを決定。

(2) 報告事項

①代表理事の職務執行報告と行事予定（11月、12月）

谷口会長、関口副会長及び高山副会長から、職務執行として11月及び12月の各委員会の活動状況・予定並びに諸行事の予定を報告し、理事会は了承。

②各委員会報告

ア. 教育支援委員会教科書部会

齊藤理事から、「柔道整復学・理論編」の改訂作業の進捗状況について報告。

イ. 教育支援委員会教育開発部会

齊藤理事から、11月9日（火）に部会を開催し、教科書部会と連携した動画作成、国家試験キーワードの作成等について検討したことを報告。

ウ. 教育支援委員会教員研修等部会

田中理事から、11月27日（土）28（日）に開催する今年度教員研修会の準備状況について報告。

齊藤理事から、11月17日（水）に来年度教員研修会開催主管校予定の名古屋医健スポーツ専門学校関係者も出席して部会を開催、来年度教員研修会は名古屋東急ホテルを会場に、9月18日（日）19日（祝）の日程で開催予定であること、また、九州医療スポーツ専門学校より再来年度（令和5年度）開催主管校への立候補を検討している旨の連絡があったことを報告。

エ. 教育支援委員会専科教員認定講習部会

齊藤理事から、東京会場及び大阪会場の閉講式を実施し今年度の講習会日程が終了したこと、また、11月15日（月）に部会を開催し、来年度の講習会について、東京会場の主管校は新宿医療専門学校、協力校は東京柔道整復専門学校と日本医学鍼灸柔整専門学校、大阪会場の主管校は関西医療学園専門学校、協力校は森ノ宮医療学園専門学校と平成医療学園専門学校に決定したこと、また、講習会関連規程の改正及び教員養成課程創設等について検討を行ったことを報告。

谷口会長は、講習会受講生が減少傾向にあることから、来年度は受講生の募集を開始する前に理事会で開催方針を検討する必要があると発言。

オ. 広報・調査委員会

大麻理事から、「卒業生進路状況アンケート調査」の作業進捗について、また、当会ホームページにおける賛助会員の掲載方法について検討を行っていることを報告。

カ. 柔道委員会

廣岡理事から、報告事項は無いと報告。

キ. 組織運営委員会

田中理事から、報告事項は無いと報告。

ク. 「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会

齊藤理事から、模擬試験の参加申込が51校あったこと、また、問題作成や費用面、告知方法等今年度の問題点を抽出し、来年度実施に繋げたいと報告。

なお、今理事会で入会を承認した専門学校沖縄統合医療学院については、今年度の模擬試験受験料を会員校扱いとすることを理事会は確認。

ケ. 学校協会創立30周年記念事業準備委員会→「社団設立30周年記念」

高山副会長から、「創立30周年記念」若しくは「学校協会創立30周年記念」としている現在の名称について、10周年、20周年時の過去の例に倣い、「社団設立30周年記念」に名称統一を行いたいと提案。理事会はこれを承認。

③関連団体等に関する報告

ア. （公財）柔道整復研修試験財団

谷口会長から、柔道整復理論の柔道整復師国家試験委員の選定について、また、関口副会長から、次期代表理事の選考及び認定実技審査制度見直しの検討状況について報告。

イ. (一社) 日本柔道整復接骨医学会

伊藤理事から、今年度学術大会の開催結果について、また、同医学会と当会との連携の必要性について報告。

ウ. (公社) 日本柔道整復師会

谷口会長から、11月12日(金)の工藤会長との面会について報告。

エ. (一社) 柔道整復教育評価機構

関口副会長から、第一次評価の実施について報告。

オ. 厚生労働省

関口副会長から、教育訓練支援給付金の暫定措置延長の要望状況について報告。

カ. 文部科学省

関口副会長から、学校法人ガバナンス改革会議の動向について、また、困窮学生への10万円給付について報告。

④その他

事務局長から、特定資産(入会金積立資産)の運用状況について報告。

以上で、理事会は16時00分終了する。

令和3年11月19日

会 長 谷 口 和 彦 印

副 会 長 関 口 正 雄 印

副 会 長 高 山 雅 行 印

監 事 米 田 忠 正 印

監 事 清 水 尚 道 印



令和3年度 第2回教育支援委員会 教育開発部会 議事録



日 時	令和3年11月9日（火）14：00～16：00
会 場	開催場所 Google Meetによるオンライン会議
出席者	7名

議 題

- (1) 教科書部会との連携について
- (2) iPadについての使用アンケート結果報告について
- (3) 電子教科書使用についての意見聴取
- (4) 国家試験キーワードの作成分担決定
- (5) 各会員の多画面動画作成
- (6) その他

配布資料

<https://sites.google.com/judo-seifuku.or.jp/20212-2kaigi>にてホームページで公開し画面共有を行いながら説明した。なお、上記アドレスは、@judo-seifuku.or.jpのアカウントのみからでないと、資料の内容は表示されない。(PDF資料添付)

- (1) iPad アンケート結果
- (2) 国試キーワードシート
- (3) 多画面動画：事例1（投げの形）・事例2（包帯法）
- (4) 2画面動画撮影法

会議内容

- (1) 教科書部会との連携について

三澤教科書部会長から柔整理論の新しい教科書の進展状況と、それに関連した以下2点の動画作成のお願いがあった。

- ①理学検査法の動画作成
- ②整復法についての動画を作成する。

※動画は、南江堂のサーバーに置かれる。

齊藤担当理事から、1動画は2分から5分程度が、適切であることが追加された。引き続き、岡本部会長を中心に進めてゆくこととなった。

(2) iPad アンケート結果

資料1にある内容を、岡本部会長が説明を行った。その中で、資料にマークした点について、岡本部会長から以下の説明があった。

①配布されたiPadへ、フィルムなどの購入について：各個人で対応いただくのは自由であるが、個人負担となる。

②多画面録画について：本会議の後半で解説するという説明があった。

③電子教科書の使用所感について：新版が出た時の書き込み内容の引き継ぎについては、難しいと説明があった。Androidタブレットについては、医書JPアプリがあるので、可能であると説明があった。さらに、同時に2つの教科書を見比べながら使えないとあったが、2画面であれば可能である。

齊藤担当理事より、多画面録画について、アプリの配布や撮影方法について質問があった。

岡本部会長から、アプリの配布について認証上のトラブルがあり出来ていない現状報告があったが、2日後に自動配布された。撮影方法については、三澤教科書部会長から、今回はとりあえず1画面で作成し、今後多画面へとバージョンアップするのが良いと意見があった。

岡本部会長から動画の内容について、各学校での特色があり統一は難しいのでは、という意見に対して、原則教科書に沿って作成いただき、各学校の特色あるものは、別に提示してゆく方法があると説明があった。また、機材や動画編集については、配布しているiPadで原則可能であると説明があった。

④国試キーワード作成について：教科書の改訂時に再作成の手間がかかるのでは、という件については、岡本部会長から、キーワードという概念は電子教科書の検索機能を利用して解説文となり得るページを検索する方法であるので、教科書が再編されても該当項目が根本的に削除されなければ問題は起こり難いという説明があった。また、キーワードについては、学校協会で配布予定の演習システム（後述）内での利用となること、演習システムの利用は、IDとPWで管理しているので漏洩は起こり難いと説明があった。著作権についても、キーワードを抽出するだけであり、あくまでも教科書を購入しているので問題はないと説明があった。

⑤教育開発部会作成のコンテンツについて：いろいろな案を今後考えてゆくと良いと説明があった。特に、Google Workspaceの契約をしているので、この学校協会アカウントに今後、色々なコンテンツを作成できると説明があった。

その後、参加の部会員から、電子教科書の利用所感の生の声を聴取した。概ね、まだまだ使いきれていないので、今後使い込んで行きたいという意見が多かった。

(3) 国家試験キーワードの作成分担決定

昨年度の助成金で作成した演習システムについて、岡本部会長より説明があった。

その中で、選択肢の解説となり得る電子教科書の該当ページを検索できるキーワードの作成について詳しい説明があった。

その選択肢に関するキーワードの作成は、部会員毎に、特定の1年分を作成いただくをお願いをする説明があった。また、キーワードの入力に関しては、資料2に示す入力シートを岡本部会長と共有しながら作成することの説明があった。

齊藤担当理事より、このキーワード作成は、学校単位で協力いただきたいこと、分担年度は岡本部会長に一任するというお話があった。

(4) 各会員の多画面動画作成

資料3に示す動画作品について説明があった。その後、資料4に示す具体的な作成方法の説明があった。

これらを踏まえて、各学校で作成を試していただきたいと、岡本部会長よりお願いがあった。三澤教科書部会長から、柔道については教科書をゼロから作ってゆく段階であるので、教育開発部会と連携して、有用な動画作成をして行きたいと意見があった。

各部会員の全員から、今後ともこの方向で頑張りたいという発言があった。

(5) その他

特に意見はなかった。

次回の開催について、1ヶ月後の予定であると説明があった。(その後、齊藤担当理事と個別に協議した結果、キーワード作成などの作業の目処がついたところで、開催するのが良いのではという意見があり、来年1月中旬あたりに行うこととした。)

以 上



令和3年度 第6回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録



日 時	令和3年9月27日（月）14：00～14：30
会 場	公益社団法人全国柔道整復学校協会事務局
出席者	3名

配布資料

- (1) 大阪会場の修了試験出題問題と修了試験採点結果に関する資料
付．修了試験解答用紙整理表と報告書
※上記の資料は会議終了とともに回収した。

議 題

- (1) 大阪会場の修了試験採点について
- (2) その他

会議内容

学校協会事務局においてマークシート解答用紙を機械採点し、成績順、各問題正答率・識別指数などの資料を作成した。

- (1) 大阪会場の修了試験合否判定について

- 1) 採点結果についての報告

本日、午後1時30分から実施した採点と、その結果資料を下に報告した。

大阪会場、出題100問、1問につき1点で採点した。正答率が20%以下の問題は無く、識別係数がマイナスの問題も正答率が高い数値であったことから、採点は現状のままとした。

最高95点、最低69点、平均86.2点、全員60点以上の合格であった。

- 2) 修了試験合否判定について

採点結果資料を担当理事から会長に電話連絡にてご確認いただき、以下の件で了解を得た。

- ・受験者23名（全員出席）、全てが修了試験の点数6割以上の基準を満たしていた。
- ・現場実習の計画書と評価表は全員提出されている。
- ・全ての受講者が規定の出席を満たしている。

以上により大阪会場を受講した23名全ての合格を確認し、9月27日現在で23名中12名が皆勤賞に該当することを確認した。

(2) その他

1) 今後のスケジュールについて

- ・次年度の専科教員認定講習会は12月までの仮申請が必要なため、各会場の主管校と協力校を決定し、追再試が必要になった場合などの取り扱い方法などを含めた規定の見直しなども実施する必要があるため、11月中までに部会を開催することで担当理事が調整することになった。
- ・令和04年1月11日（火）午後2時00分～ 第7回試験委員会



令和３年度 第７回教育支援委員会 専科教員認定講習部会 議事録



日 時	令和３年11月15日（月）14：00～16：00
会 場	公益社団法人全国柔道整復学校協会事務局
出席者	担当理事、部会長、副部会長、委員（６名）、事務局員 合計10名

配布資料

- (1) 柔道整復師専科教員認定講習会実施規定 現行分１部・修正案２部
- (2) 柔道整復師専科教員認定講習会運営委員会細則
- (3) 柔道整復師専科教員認定講習会試験委員会細則
- (4) 新カリキュラム一覧表と新旧対照表
- (5) 令和３年度各会場別アンケート結果ならびに修了者数等報告書
- (6) 令和４年度受講試験実施スケジュール（案）ならびに（予定）

議 題

- (1) 各会場毎の講習会カリキュラムの分担について
- (2) 規約の改正について
- (3) 試験委員会・運営委員会のスケジュールについて
- (4) その他

会議内容

担当理事より開会の挨拶のあと、部会長の進行により議題の検討を実施した。

1) 各会場毎の講習会カリキュラムの分担について

(1) 東京会場

主管校：新宿医療専門学校

協力校：東京柔道整復専門学校・日本医学柔整鍼灸専門学校

次年度は上記の３校で専科教員認定講習会を運営することとなり、カリキュラムは来月開催する担当校打合せで分担することとした。

(2) 大阪会場

主管校：関西医療学園専門学校

協力校：森ノ宮医療学園専門学校・平成医療学園専門学校

次年度は上記の３校で専科教員認定講習会を運営することとなり、カリキュラムは任期満了となる明治東洋医学院専門学校の担当分を平成医療学園専門学校が引き継ぐこととした。

２）規約の改正について

（１）実施規程について

- ・第２条 運営委員会は担当理事１名及び委員８名以内で構成し、試験委員会は委員３名以内で構成する。

（２）運営委員会細則について

- ・第２条 （２）（３）（４）の３カ年を５カ年に変更、（４）の柔道整復施術所または保健医療機関での勤務については１カ年以上の勤務を含むことが望ましいに変更。
- ・第３条 （６）に調査票を加える。
- ・第９条 ２は削除する。
- ・第１２条 （１）教職教育科目、（２）専門基礎科目、（３）専門科目の内容を配布資料（４）新カリキュラム一覧表と新旧対照表と一致させる。
- ・第１５条 ４（２）の講義料について東京会場の取り扱い方法は、来月の担当校打合せの際に決定する。

（３）試験委員会細則について

- ・第３条 配布資料（６）の令和４年度受講試験実施スケジュール（案）の内容に変更する。
- ・第３章ならびに第４章を配布資料（１）の柔道整復師専科教員認定講習会実施規定修正案（黄色）の内容と差し替える。
- ・差し替えた第３章と第４章の内容は運営委員会細則へ記載する。

３）試験委員会・運営委員会のスケジュールについて

（１）試験委員会

配布資料（６）令和４年度受講試験実施スケジュール（予定）に添って次年度も委員会を開催する。

（２）運営委員会

来月開催する各会場毎の担当校打合せの内容を令和４年２月７日（月）の２０２１年度の第８回 教育支援委員会 専科教員認定講習部会で摺り合わせて決定する。

4) その他

(1) 柔道整復教員養成課程について

専科教員認定講習部会としては、養成校卒業後1年で専門基礎科目と専門科目を担当することが出来る教員を育成し、高度専門士の称号とともに付与することを提案した。

(2) 講習会終了後のリクルート活動について

配布資料(5) 令和3年度各会場別アンケート結果を公表することで、教員を募集としている会員校と講習会終了後の教職希望者とのマッチングを図ってはどうかとの意見があった。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・ 来月上旬に各会場毎の担当校打合せを実施予定。
- ・ 試験委員会は令和4年1月11日(火)の14:00～ 学校協会事務局で開催予定。
- ・ 専科教員認定講習部会は令和4年2月7日(月)14:00～ 学校協会事務局で開催予定。

以 上



令和3年度 第3回広報・調査委員会 議 事 録



日 時	令和3年10月22日（金）14：00～15：43
会 場	（公社）全国柔道整復学校協会 会議室（リモート開催）
出席者	10名

議 題

- (1) 広報業務について
- (2) 調査業務について
- (3) その他

配布資料

- (1) 会報誌61号 資料①
ホームページ 会員校紹介ページの更新依頼 資料②
- (2) 卒業生進路状況アンケート調査 追加資料
入学者の構成に関するアンケート調査 追加資料

会議内容

冒頭、担当理事より挨拶及び各委員より各校の近況についての報告を行った。

(1) 広報業務について

会報誌 61 号（令和 4 年 1 月発行予定）

- ①事務局長より目次案に基づき、掲載内容の説明があった。
- ②「わが街の見どころ聞きどころ」担当校（福岡医療専門学校）への依頼については、事務局長より依頼する。編集後記については、森ノ宮医療学園専門学校小笠原委員が担当する。12月15日（水）までに原稿を送付する。
- ③巻頭随想については、坂本顧問へ原稿作成をお願いするとし、担当理事より依頼していただく。その後、正式に事務局より依頼する。
- ④追加記事として、11月に行われる教員研修会のレポート記事を掲載する。主管校には事務局より依頼する。

- ⑤追加記事として、30周年記念式典に関する記事とスライドに使用する画像や資料の提供についての記事を掲載する。原稿は委員長に作成していただく。
- ⑥今後の掲載内容（企画案）について、各委員において引き続き検討する。

ホームページ 会員校紹介ページの更新依頼

- ①事務局より各校に更新依頼を行った。各委員より各校の状況等について意見が上がった。
掲載内容が古い・問題がある場合については、適宜各校に連絡する。
- ②ホームページ上に賛助会員（株式会社南江堂、医歯薬出版株式会社）の記載がないので、掲載方法について事務局と協議し検討する。

(2) 調査業務について

卒業生進路状況アンケート調査の報告

担当理事より、年明け2月を目途に取りまとめできるスケジュールで、卒業生約11000名に対して実施する旨が報告された。また、回収率20%を目標に郵送とメールにて実施すること、従前のアンケート調査項目から質問項目13を「施術管理者研修の受講状況」に変更されたことが報告された。なおアンケートの集計・分析は、大和総合印刷株式会社に委託する。

入学者の構成に関するアンケート調査の報告

担当理事より会報60号に結果が掲載された旨が報告された。インターネットでの調査ができないかなどの意見が上がったので、今後検討していく。

(3) その他

学校協会創立30周年記念事業準備委員会の報告

前回報告の後、準備委員会が行われていないので、次回委員会にて報告を行うこととなった。

学校協会創立30周年記念式典スライドについて

祝賀会のオープニングで流す「ショートムービー」について、業者にて制作を依頼する。会長のインタビューの他、未来に向けての内容となる予定。式典後はホームページにて掲出する。原案については後日各委員に確認していただき、納品予定は令和4年5月末である。

また、式典の最後に流す「スライド」については、委員長より原案を作成していただいている。前回20周年以降の出来事として、6代会長および7代会長の就任に加えて、新カリキュラムへの移行を掲載する。内容の追加がある委員、および過去の

画像等を提供できる委員は、委員長まで提出することとなった。なお、学校協会創立30周年記念式典については、令和4年7月28日（木）15時～19時の予定で、パレスホテル東京にて行われる旨情報共有された。

次回広報・調査委員会について

次回の令和3年度第4回広報・調査委員会は、令和4年1月18日（火）14時～16時に全国柔道整復学校協会会議室（オンライン併用）にて行う。議題として、会報誌62号、卒業生進路状況アンケート調査報告、学校協会創立30周年記念事業準備委員会報告、専科教員認定講習会PRポスター、委員会開催計画、委員会事業計画について討議を予定。

以 上



令和3年度 第2回「柔道整復師国家試験」 模擬試験実施検討委員会 議事録



日 時	令和3年11月11日（木）15：00～16：00
会 場	東京医療専門学校（オンライン会議ホスト）
出席者	4名

議 題

- (1) 模擬試験実施方法について
- (2) 収集データの内容について
- (3) 今後の予定

配布資料

- (1) 模擬試験実施要項
- (2) 模擬試験問題及び解答
- (3) 学校コード（国家試験願書）
- (4) 模擬試験参加校一覧
- (5) 収集データサンプル

会議内容

- (1) 模擬試験実施要項について

収集データについて各校マークシート読取装置及び採点ソフトの違いから収集データについて稲岡先生から収集データサンプルを各校に提示し、サンプルに類似したデータをExcelファイルにて各校に提出していただく方法にしてはとの提案があり、この方法にて成績データ収集を実施することとした。その際、各校の成績データの提出先は東京医療専門学校（委員長所属校）ではなく学校協会にした方が個人情報の観点から望ましいのではないかと意見があった。

※後日、事務局長に各校成績データ提出先について相談したところ了承が得られた。

- (2) 学校コードについて

受験番号は国家試験願書にある学校コードを各学校受験生の上3桁に使用するため、各校にて国家試験願書の学校コードを確認し、受験番号を設定していただくこととした。

以 上



「福岡の文教地区、西新」

福岡医療専門学校

柔道整復科 喜多村 伸明

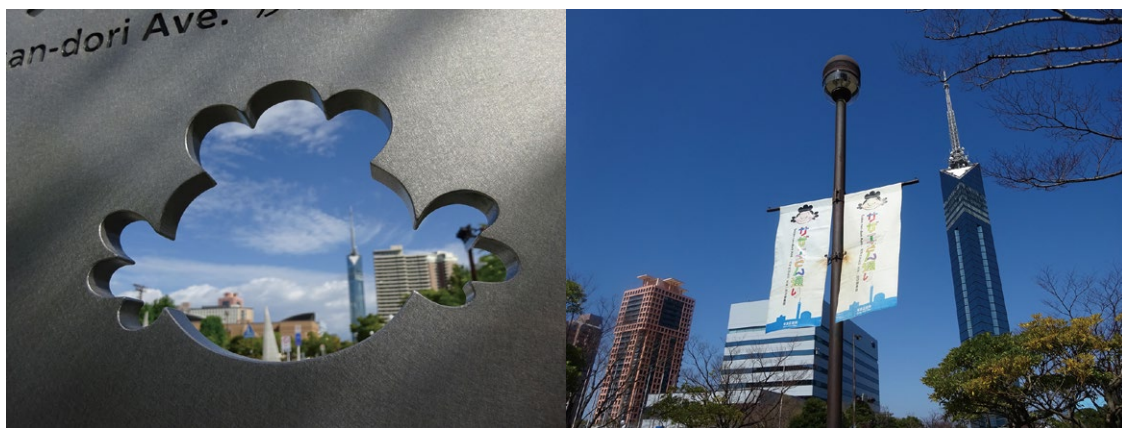
【福岡PayPay ドーム】

1993年3月、アジア太平洋博覧会（よかトピア）会場（駐車場）跡地に、福岡ダイエーホークスの本拠地として、日本初の開閉式屋根を備える全天候型スタジアムとして建造されました。日本のドーム球場としては2番目に建造されており、ドーム内には王貞治ベースボールミュージアムをはじめ、多くの商業施設が入っています。また、野球だけにとどまらず、最大5万人を超える大規模コンサートや、さまざまなコンベンションやセレモニー、多種多様なスポーツイベントを開催しています。



【サザエさん通り】

「サザエさん」の作者、故長谷川町子さんが、百道の海岸を散歩しながら登場人物の「サザエ」「カツオ」「ワカメ」等を考案したことから、2012年5月に漫画「サザエさん」の発案の地である福岡市早良区西新から百道浜までの市道1.6kmの通りが「サザエさん通り」と命名されました。通り沿線には、学校や福岡市博物館、福岡市総合図書館などの公共施設、福岡タワーなどの観光施設、周辺には、元寇防塁などの史跡や商店街もあります。



【福岡タワー】

地上234mと海浜タワーとしては日本一の高さを誇り、ハーフミラーの洗練された外観が特徴です。最上階の展望室からの眺めは格別で、福岡の街並みや博多湾などの景色を360度の大大パノラマで一望できます。タワー開業30周年を記念し、2019年2月に館内が大規模リニューアルされました。また、



近くにあるシーサイドももち海浜公園は、東西1.4kmに広がる白い海浜と穏やかな博多湾を一望できる都心に近い海辺のリゾートで、ビーチスポーツ・音楽イベント等にも良く利用されています。

【福岡市博物館・福岡市総合図書館】

福岡市博物館は、1990年10月に、地域の歴史と民俗を研究・展示する博物館として開館しました。福岡市志賀島で出土した国宝「金印」や黒田節で有名な名鎗「日本号」を常時鑑賞できます。常設展示室では、アジアの交流拠点都市・福岡の歴史や人々の暮らしを映像・ジオラマを用いてわかりやすく紹介しています。体験学習室「みたいけんラボ」や、前庭に臨む喫茶室も魅力です。隣には福岡市総合図書館があります。「図書・映像・文書」を3つの柱とし、新しい形の公立図書館を目指しています。子どもから大人までゆったり楽しめる滞在型の図書館で、蔵書は約130万冊。映画館を併設し企画上映しています。



隣には福岡市総合図書館があります。「図書・映像・文書」を3つの柱とし、新しい形の公立図書館を目指しています。子どもから大人までゆったり楽しめる滞在型の図書館で、蔵書は約130万冊。映画館を併設し企画上映しています。

【大濠公園】

大濠公園は福岡市のほぼ中央に位置し、総面積は約39万8千平方メートル、うち約22万6千平方メートルの池を有した、全国有数の水景公園で国の登録記念物にも指定されています。公園内には、池の周辺約2キロメートルの周遊道、野鳥の森、児童遊園、能楽堂、日本庭園、および4つの橋で結ばれた中の島や浮見堂、ボートハウス等を配し、休養や娯楽、体育の向上に利用されています。



「写真提供：福岡市」

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

正 会 員 校 要 覧

令和3年12月1日現在

都道府県		学 校 名	所 在 地	T E L F A X
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	〒060-0042 札幌市中央区大通西18-1-15	011-642-0731 011-642-8455
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	〒061-1396 恵庭市恵み野北2-12-1	0123-36-8119 0123-33-2234
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学館 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-3-4	019-652-1189 019-652-1198
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	〒983-0005 仙台市宮城野区福室3-4-16	022-258-6222 022-259-7511
	5	学校法人 赤門宏志学院 赤門鍼灸柔整専門学校	〒980-0845 仙台市青葉区荒巻青葉33-1	022-222-8349 022-222-3797
福島県 1校	6	学校法人 福寿会 福島医療専門学校	〒963-8026 郡山市並木3-2-23	024-933-0808 024-933-7887
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	〒371-0843 前橋市新前橋町21-16	027-253-1205 027-253-1230
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	〒357-0016 飯能市下加治345	042-974-8880 042-974-8884
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-185-1	048-658-0001 048-658-0005
東京都 12校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	〒150-0031 渋谷区桜丘町20-1	03-3461-4740 03-3461-4733
	11	学校法人 杏文学園 東京柔道整復専門学校	〒179-0084 練馬区氷川台3-31-13	03-5920-2211 03-5920-2210
	12	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	〒160-0008 新宿区四谷三栄町16-12	03-3341-4043 03-3358-3976
	13	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	〒169-0075 新宿区高田馬場1-18-18	03-3208-7741 03-3208-6488
	14	学校法人 了徳寺学園 了徳寺学園医療専門学校	〒130-0026 墨田区両国4-27-4	03-3846-5151 03-3846-5152
	15	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	〒134-0088 江戸川区西葛西3-1-16	03-5605-2930 03-5605-2932
	16	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	〒192-0983 八王子市片倉町1404-1	042-637-3111 042-637-3112
	17	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	〒111-0053 台東区浅草橋3-31-5	03-5835-1456 03-5835-1457
	18	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	〒190-0012 立川市曙町1-13-13	042-529-6660 042-529-6665
	19	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	〒160-0017 新宿区左門町5番地	03-3352-6811 03-3352-6816
	20	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	〒194-0022 町田市森野1-7-8	042-729-1026 042-721-8411
	21	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	〒104-0032 中央区八丁堀1-11-11	03-3551-5751 03-3551-5752
神奈川県 1校	22	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-7-24	045-471-3731 045-471-3732
静岡県 1校	23	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	〒434-0038 浜松市浜北区貴布祢232-3	053-585-1333 053-585-1661

都道府県		学 校 名	所 在 地	T E L F A X
愛知県 3校	24	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	〒451-0053 名古屋市西区枇杷島2-3-13	052-562-1210 052-563-6495
	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	〒460-0008 名古屋市中区栄3-20-3	052-238-3455 052-238-3465
	26	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	〒492-8251 稲沢市東緑町1-1-81	0587-23-5235 0587-23-5237
石川県 1校	27	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	〒920-0816 金沢市山の上町5番5-2号	076-252-2171 076-252-2177
京都府 1校	28	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	〒604-8203 京都市中京区衣棚町51-2	075-257-6507 075-257-6488
大阪府 8校	29	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-18-13	06-6699-2222 06-6609-2118
	30	学校法人 行岡保健衛生学園 大阪行岡医療専門学校長柄校	〒531-0061 大阪市北区長柄西1-7-53	06-6358-9271 06-6358-3451
	31	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	〒564-0034 吹田市西御旅町7-53	06-6381-3811 06-6381-3800
	32	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	〒531-0071 大阪市北区中津6-10-15	06-6454-1500 06-6454-1550
	33	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	〒537-0022 大阪市東成区中本4-1-8	06-6976-6889 06-6973-3133
	34	学校法人 履正社 履正社医療スポーツ専門学校	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21	06-6305-6592 06-6305-1692
	35	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	〒530-0047 大阪市北区西天満5-3-10	06-6360-3003 06-6360-3022
	36	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-5-35	06-6398-2255 06-6398-2225
兵庫県 1校	37	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	〒659-0065 芦屋市公光町1-18	0797-22-7221 0797-22-9333
岡山県 1校	38	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	〒700-0026 岡山市北区奉還町2-7-1	086-255-2000 086-255-2010
広島県 1校	39	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	〒731-3164 広島市安佐南区伴東1-12-18	082-849-5001 082-849-5115
香川県 1校	40	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	〒769-0205 綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1	0877-41-2320 0877-41-2322
愛媛県 1校	41	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町3-3-13	089-946-3388 089-946-4555
福岡県 4校	42	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	〒814-0005 福岡市早良区祖原3-1	092-833-6120 092-833-6516
	43	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	〒812-0032 福岡市博多区石城町7-30	092-262-2119 092-262-8669
	44	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-3-7	092-738-7823 092-738-8584
	45	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	〒802-0077 北九州市小倉北区馬借1丁目1-2	093-531-5331 093-531-5332
佐賀県 1校	46	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	〒841-0027 佐賀県鳥栖市松原町1709-2	0942-81-3131 0942-81-3154
沖縄県 1校	47	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖4丁目1番-19号	098-875-8377
合 計		47校		

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

学校理事長・校長・正会員名簿

令和3年12月1日現在

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
北海道 2校	1	公益社団法人 北海道柔道整復師会 附属北海道柔道整復専門学校	小池 良二	加藤 貞利	小池 良二
	2	学校法人 滋慶学園 北海道ハイテクノロジー専門学校	浮舟 邦彦	佐藤 俊	早坂 正利
岩手県 1校	3	学校法人 龍澤学館 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	龍澤 正美	龍澤 正美	栗島 秀行
宮城県 2校	4	学校法人 東北柔専 仙台接骨医療専門学校	島谷 俊美	島谷 俊美	島谷 俊美
	5	学校法人 赤門宏志学院 赤門鍼灸柔整専門学校	坂本 正憲	安齋 昌弘	坂本 正憲
福島県 1校	6	学校法人 福寿会 福島医療専門学校	岸野 政子	飯島 正治	岸野 雅方
群馬県 1校	7	学校法人 国際中央学園 中央スポーツ医療専門学校	中島 利郎	松本 邦夫	中島 利郎
埼玉県 2校	8	学校法人 大川学園 大川学園医療福祉専門学校	奥村 千秋	平澤 淳	平澤 淳
	9	学校法人 呉竹学園 呉竹医療専門学校	坂本 歩	松原 哲	八亀俊一郎
東京都 12校	10	学校法人 花田学園 日本柔道整復専門学校	櫻井 康司	櫻井 康司	下地 秀和
	11	学校法人 杏文学園 東京柔道整復専門学校	高山 雅行	有賀 薫	高山 雅行
	12	学校法人 呉竹学園 東京医療専門学校	坂本 歩	齊藤 秀樹	齊藤 秀樹
	13	学校法人 敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	小林 光俊	奥田 久幸	奥田 久幸
	14	学校法人 了徳寺学園 了徳寺学園医療専門学校	古後 昌彦	桑原 淳	桑原 淳
	15	学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	関口 正雄	関口 正雄
	16	学校法人 片柳学園 日本工学院八王子専門学校	千葉 茂	千葉 茂	千葉 茂
	17	学校法人 創志学園 日本健康医療専門学校	大橋 博	清宮 克幸	大橋 博
	18	学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校	都築 慶子	都築 稔	都築 稔
	19	学校法人 小倉学園 新宿医療専門学校	小倉 基義	永野 修	永野 修
	20	学校法人 西田学園 アルファ医療福祉専門学校	西田 忠康	瀧 将仁	瀧 将仁
	21	学校法人 常陽学園 東京医療福祉専門学校	渡邊 賢二	殿村 康一	殿村 康一
神奈川県 1校	22	学校法人 呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校	坂本 歩	村上 哲二	村上 哲二

都道府県		学 校 名	理事長	校 長	正会員
静岡県 1校	23	学校法人 森島学園 専門学校浜松医療学院	森島 康之	遠藤 進	森島 康之
愛知県 3校	24	学校法人 米田学園 米田柔整専門学校	米田 忠正	岩間よしゑ	米田 忠正
	25	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 名古屋医健スポーツ専門学校	近藤 雅臣	久保田 一	竹本 雅信
	26	学校法人 葛谷学園 中和医療専門学校	右田 一弘	楠本 高紀	葛谷 壽彦
石川県 1校	27	学校法人 木島学園 北信越柔整専門学校	碓井 貞成	碓井 貞成	碓井 貞成
京都府 1校	28	学校法人 滋慶コミュニケーションアート 京都医健専門学校	近藤 雅臣	小林 哲夫	竹本 雅信
大阪府 8校	29	学校法人 関西医療学園 関西医療学園専門学校	武田 大輔	武田 大輔	廣岡 聡
	30	学校法人 行岡保健衛生学園 大阪行岡医療専門学校長柄校	行岡 正雄	奥山 明彦	行岡 正雄
	31	学校法人 明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校	谷口 和彦	谷口 和彦	谷口 和彦
	32	学校法人 平成医療学園 平成医療学園専門学校	岸野 雅方	北野 吉廣	北野 吉廣
	33	学校法人 森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	清水 尚道	清水 尚道	清水 尚道
	34	学校法人 履正社 履正社医療スポーツ専門学校	金谷 等	池尾 忠思	田中 雅博
	35	学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校	小林 英健	清原 伸彦	坂本 博
	36	学校法人 大阪滋慶学園 東洋医療専門学校	浮舟 邦彦	太田 宗夫	古谷 圭司
兵庫県 1校	37	学校法人 神戸創志学園 関西健康科学専門学校	大橋 節子	住田 行志	大橋 節子
岡山県 1校	38	学校法人 朝日医療学園 朝日医療大学校	津島 伸章	柚木 脩	柚木 脩
広島県 1校	39	学校法人 I G L 学園 I G L 医療福祉専門学校	永見 憲吾	本廣 淳範	本廣 淳範
香川県 1校	40	学校法人 大麻学園 四国医療専門学校	大麻 悦治	石川 浩	大麻 正晴
愛媛県 1校	41	学校法人 河原学園 河原医療福祉専門学校	河原 成紀	越智 節也	村田 景司
福岡県 4校	42	学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校	藤瀬 武	藤瀬 武	藤瀬 武
	43	学校法人 滋慶学園 福岡医健・スポーツ専門学校	浮舟 邦彦	古谷野 潔	古谷野 潔
	44	学校法人 都築学園 福岡天神医療リハビリ専門学校	都築 仁子	大川 照明	大川 照明
	45	学校法人 国際学園 九州医療スポーツ専門学校	水嶋 章陽	赤木 恭平	水嶋 章陽
佐賀県 1校	46	学校法人 九州アカデミー学園 九州医療専門学校	門司 健	井上 勇介	門司 健
沖縄県 1校	47	学校法人 松正学園 専門学校沖縄統合医療学院	松浦 幸男	鈴木 信司	鈴木 信司

賛助会員名簿

賛助会員団体名	代表者氏名	住 所	電話番号
株式会社南江堂	代表取締役社長 小 立 健 太	〒113-8410 文京区本郷3-42-6	03-3811-7140
医歯薬出版株式会社	代表取締役社長 白 石 泰 夫	〒113-8612 文京区本駒込1-7-10	03-5395-7616

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教科書部会 名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和2年9月23日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	東京医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	明治東洋医学院専門学校	副校長・柔整学科長	三澤 圭吾
副部会長	北海道柔道整復専門学校	教務次長	西巻 英男
部員	福島医療専門学校	教務部長	齊藤 慎吾
部員	中央スポーツ医療専門学校	専科教員	福田ひとえ
部員	呉竹鍼灸柔整専門学校	科長	田中 秀和
部員	専門学校浜松医療学院	学科長	錦織 輝礼
部員	米田柔整専門学校	教員	生駒 慎二
部員	河原医療福祉専門学校	教頭	鈴 武利
部員	九州医療専門学校	教員	塚本 直太

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教育開発部会 名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和3年4月1日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	東京医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
	明治東洋医学院専門学校	情報教育推進室室長	岡本 芳幸
	株式会社滋慶出版	代表取締役	下村 康
	北海道ハイテクノロジー専門学校		瀧ヶ平隆一
	了徳寺学園医療専門学校	副学科長	淵ノ上真太郎
	中和医療専門学校	校務主任	太田 康晴
	朝日医療大学校	学科長	金廣 行信
	福岡医療専門学校	副校長	藤瀬 正
	福岡医健・スポーツ専門学校	教員	磯部 正司

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会教員研修等部会 名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和2年8月5日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	東京医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	日本工学院八王子専門学校	教員	本澤 光則
副部会長	森ノ宮医療学園専門学校	教育支援部長	葉山 直史
部員	日本健康医療専門学校	専任教員	新才 博紀
部員	北信越柔整専門学校	理事長・校長	碓井 貞成
部員	大阪行岡医療専門学校長柄校	教務主任	田中 勇二
部員	東洋医療専門学校	副学科長	山田 靖典
部員	四国医療専門学校	専任教員	四宮 英雄
部員	九州医療スポーツ専門学校	教務部長	桑野 幸仁

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教育支援委員会専科教員認定講習部会 名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和2年8月5日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	東京医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
部会長	呉竹医療専門学校	臨床教育研究センター マネージャー	川口 央修
副部会長	平成医療学園専門学校	校長	北野 吉廣
部員	日本柔道整復専門学校	教務副部長	山口 竜彦
部員	東京医療専門学校	事務長	建石 泰三
部員	関東柔道整復専門学校	学科長代理	加藤 稔啓
部員	新宿医療専門学校	学科長	田代 雅人
部員	森ノ宮医療学園専門学校	役員	吉川 徹
部員	近畿医療専門学校	専科教員	吉村 道人

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 広報・調査委員会 委員名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和2年8月5日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	四国医療専門学校	副理事長	大麻 正晴
委員長	東京医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
副委員長	関西医療学園専門学校	課長	田中 慎一
委員	仙台接骨医療専門学校	教員	松川いづみ
委員	赤門鍼灸柔整専門学校	専任教員	亀井 啓
委員	日本医学柔整鍼灸専門学校	専任教員	片橋 るみ
委員	森ノ宮医療学園専門学校	教員	小笠原宏之
委員	関西健康科学専門学校	教員	宮崎 香織
委員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 柔道委員会 委員名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和3年3月30日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	関西医療学園専門学校	副校長	廣岡 聡
委員長	東京医療専門学校	科長補佐	早川 幸秀
副委員長	京都医健専門学校	副校長	湊谷 知幹
委員	北海道柔道整復専門学校	教員	筒井 寛幸
委員	東京柔道整復専門学校	教員	紺野 直能
委員	名古屋医健スポーツ専門学校	副校長・学科長	米女 博司
委員	I G L医療福祉専門学校	学科長	埴 義徳

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 組織運営委員会 委員名簿

令和2年8月5日より令和4年3月31日まで

令和2年8月5日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	履正社医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
副委員長	履正社医療スポーツ専門学校	事務長	竹中 宏
委員	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	学科主任	松岡 靖
委員	大川学園医療福祉専門学校	学科長	霞 孝行
委員	アルファ医療福祉専門学校	学科長	鈴木 忠慶
委員	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	福岡天神医療リハビリ専門学校	副学科長	小川 勝

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 「柔道整復師国家試験」模擬試験実施検討委員会 委員名簿

令和3年5月26日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
担当理事	東京医療専門学校	校長	齊藤 秀樹
委員長	東京医療専門学校	学科長	杉山 直人
副委員長	明治東洋医学院専門学校	教務課長	秋津 知宏
副委員長	滋慶学園グループ	国家試験対策センター長	稲岡 隆輔
委員	附属北海道柔道整復専門学校	教務主任	野崎 享
委員	東京柔道整復専門学校	校長補佐	麓 康次郎
委員	東京メディカル・スポーツ専門学校	専任教員	小関 孝男
委員	関西医療学園専門学校	学生部長補佐	林 竜也
委員	森ノ宮医療学園専門学校	教務部長	松下 美穂
委員	履正社医療スポーツ専門学校	学科長補佐	辻井 宏昭
委員	四国医療専門学校	学科主任	鹿庭 祥平

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 学校協会創立30周年記念事業準備委員会 委員名簿

令和3年2月25日現在

	学 校 名	職 名	氏 名
相談役	(公社) 全国柔道整復学校協会	副会長	高山 雅行
担当理事	履正社医療スポーツ専門学校	副校長	田中 雅博
委員長	明治東洋医学院専門学校	事務局長	藤井 義巳
副委員長	東京医療専門学校	事務長補佐	廣木 智
委員	東京医療福祉専門学校	学科長	伊藤 浩二
委員	関西医療学園専門学校	課長	田中 慎一
委員	(公社) 全国柔道整復学校協会	事務局長	永田 昭彦
委員	(公社) 全国柔道整復学校協会	事務員	鈴木 良子
委員	(公社) 全国柔道整復学校協会	事務員	田中あつ子

❁❁❁❁ 編集後記 ❁❁❁❁

新年明けましておめでとうございます。会員校の皆様におかれましては、国家試験前のお忙しい時を過ごしておられることと思います。

今号も会長はじめ数多くの方々のご協力をいただき、発刊することができました。本当にありがとうございます。特に「我が街、見どころ・聞きどころ」のページは、各校の担当の方々が工夫を凝らして皆様の街をご紹介します。毎回その記事の面白さに感心しております。またこれらの記事を本来の業務の合間を縫って執筆していただいたのだと思うと、本当に頭が下がります。もう少し状況が落ち着いたら、バックナンバーを片手に今まで掲載された街を片っ端から回ってみたいですね。これからも皆様のお国自慢を楽しみにしております。

さて令和の時代になって早いもので4年目になりました。目まぐるしい事が続くここ数年ではありますが、これからも明るい話題を皆様にお届けできればと思っております。今年もどうぞよろしくお願いします。

広報・調査委員会 委員
森ノ宮医療学園専門学校 小笠原 宏之

公益社団法人 全国柔道整復学校協会広報誌 **会 報** 第61号

令和4年1月 発行

発 行 所 公益社団法人 全国柔道整復学校協会
発 行 人 谷 口 和 彦

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6-2
丸神ビル1階

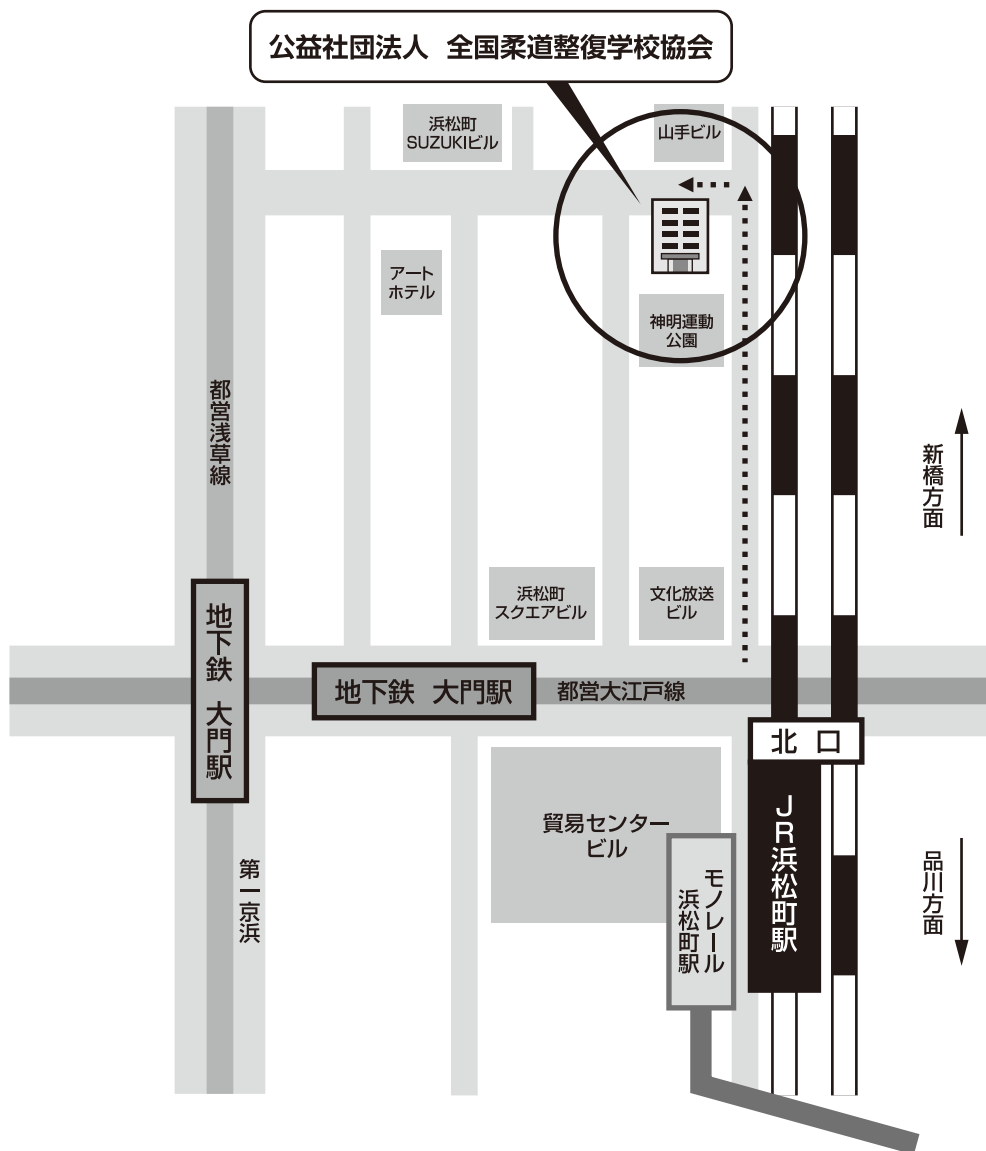
電 話 03-5405-1690

F A X 03-5405-3790

ホームページ <https://www.judo-seifuku.or.jp/>

印 刷 所 大和綜合印刷株式会社

案 内 図



アクセス

- ・JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- ・都営地下鉄浅草線「大門駅」B1より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線「大門駅」B1より徒歩5分

所在地

公益社団法人 全国柔道整復学校協会

〒105-0013

東京都港区浜松町1丁目6-2丸神ビル1F

TEL：(03) 5405-1690 FAX：(03) 5405-3790

